



## 選手の数だけ物語がある vol.2

## ー 長谷川寛太選手

9月号で紹介した上村遼太郎選手に続いて、今回は長谷川寛太選手にスポットを当てます。  
スクラムの要であるプロップのポジションを担う長谷川選手は、現在、福岡県立浮羽真館高校で保健体育科教員を務めながらラグビーを続けています。



試合に意気込む長谷川選手とルリー口福岡の選手たち



ラグビー部で指導する  
長谷川選手



授業を行う長谷川選手

### ーラグビーをはじめたきっかけは？

小学6年間はサッカーと水泳を、中学3年間は野球に熱中していました。そんな中、中学時代のラグビー部出身の先生から「そんなに元気ならラグビーをやってみろ」と勧められ、地元の高校総体の決勝試合で初めてラグビーを観戦しました。「こんな何でもあるのスポーツがあるんだ」とすごく興味を持ったことを覚えています。そして、初観戦した時の試合に出場していた長崎北陽台高校に進学し、ラグビーを始めました。

### ーラグビーを始めてみてどうでしたか？

1年生は苦い思い出ばかりです。ルールもわからず、チームメイトの動きについていけず、毎日泣いていたので「泣きべそカンタ」と言われていました。でも、練習を重ねて少しずつ活躍できるようになり、3年生の時には全国大会にも出場し、全国制覇を果たしました。

### ーその後の進路に帝京大学を選んだ理由はありますか？

自分をラグビーの道へ導いてくれた先生方への感謝の気持ちと、自分と同じように、高校生に可能性を見出してあげたいという想いから、教員を目指していました。進路を考え始めた頃、帝京大学の監督と話をすることがあり、監督の熱意に強く惹かれ、日本一のラグビーチームでプレーしながら、教員免許を取得するために進学を決めました。

### ー大学を卒業後、どんな経緯でルリー口福岡に入団されたんですか？

大学卒業後に入団したプロチームが廃団することになり、教員をやろうと考えていました。そんな時、これまで一緒にラグビーをしていた仲間から、「教員として働きながら、ラグビーを続けられるルリー口福岡というチームがある」と声をかけられ、話を聞いているうちに入団したい気持ちが強くなりました。

### ー教員をやってみてどうですか？

自分に合っていると感じています。授業やラグビー指導で分かりやすく伝える工夫をするのが楽しく、生徒に伝わった瞬間は特に嬉しいです。生徒たちには、自分の目標を見つけ、好きなことに挑戦し続けてほしいと思いながら接しています。

### ー最後に応援してくれる皆さんにメッセージをお願いします！

いつも皆さんの応援の熱さがとても心に残ります。ルリー口福岡のファンの皆さんは特に温かく、支えられているなど実感しています。ルリー口福岡を通して、うきは市の皆さんの温かい人柄や美味しいフルーツを、より多くの方に伝えていきたいと思っています。これからも応援をよろしくお願いします！